

令和7年度「全国学力・学習状況調査」（令和7年4月実施）の結果について

令和7年9月3日
定例教育委員会資料
教育部指導課

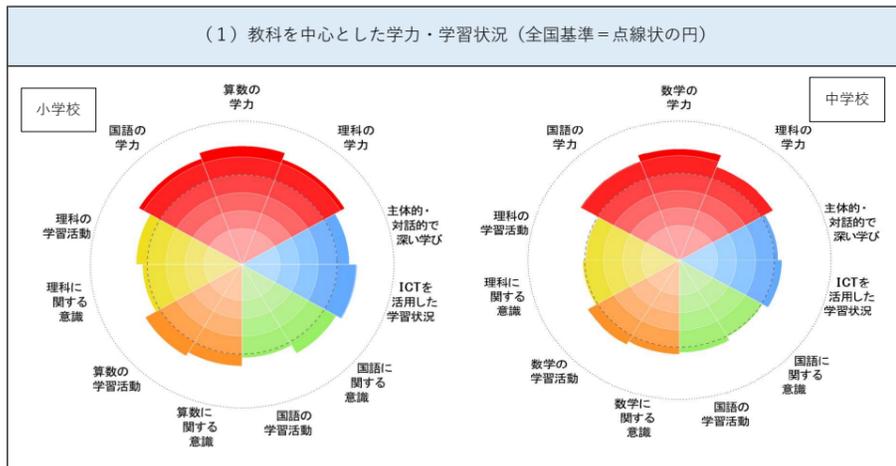
1 調査目的（要旨）

- 義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
- 学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 対象学年 小学校第6学年、中学校第3学年

- ### 3 調査事項
- (1) 児童・生徒：教科調査（国語、算数・数学、理科）、質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査） ※中学校理科は、CBT（Computer-Based Testing）で実施。その他はPBT（Paper-based Testing）で実施。
- (2) 学校：質問紙調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

4 教科を中心とした学力・学習状況の結果



(2) 教科調査の推移（％等）

教科	調査項目	小学校 第6学年					中学校 第3学年				
		R3	R4	R5	R6	R7	R3	R4	R5	R6	R7
国語	武蔵野市	75 (+7)	73 (+4)	76 (+7)	78 (+8)	76 (+6)	73 (+6)	76 (+6)	80 (+8)	70 (+9)	61 (+4)
	東京都	68.0	69.0	69.0	70.0	70.0	67.0	70.0	72.0	61.0	57.0
	全国(公立)	64.7	65.6	67.2	67.7	66.8	64.6	69.0	69.8	58.1	54.3
算数・数学	武蔵野市	81 (+7)	73 (+6)	75 (+8)	78 (+10)	72 (+8)	68 (+8)	65 (+11)	66 (+12)	68 (+11)	61 (+8)
	東京都	74.0	67.0	67.0	68.0	64.0	60.0	54.0	54.0	57.0	53.0
	全国(公立)	70.2	63.2	62.5	63.4	58	57.2	51.4	51	52.5	48.3
理科	武蔵野市		69 (+4)			67 (+7)		58 (+7)			529 (+23)
	東京都		65.0			60.0		51.0			506
	全国(公立)		63.3			57.1		49.3			503

※（ ）内の数値は東京都との差を表す
※令和7年度の理科は平均IRTスコア
【IRTスコア=IRT（項目反応理論）に基づき、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定する。全国平均を基準として500で表す】

(3) 項目別の平均正答率等（％）

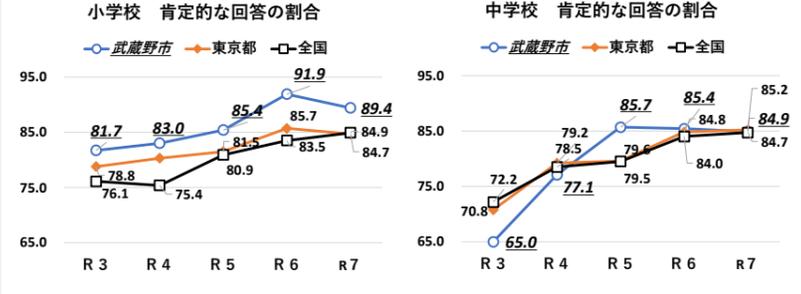
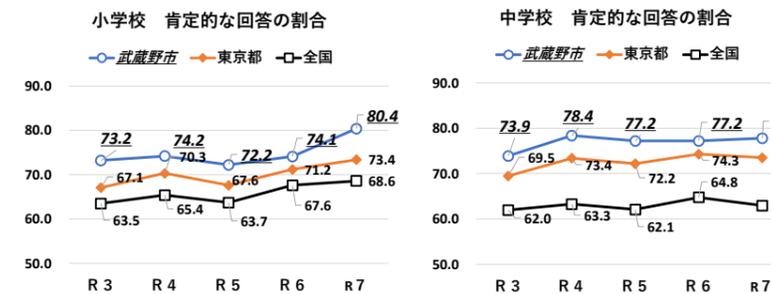
教科	調査項目	令和6年度					
		小学校 第6学年			中学校 第3学年		
		思考・判断・表現	記述式	最も高い無回答率	思考・判断・表現	記述式	最も高い無回答率
国語	武蔵野市	73.9 (+6.8)	68.5 (+9.3)	12.2 (-7.7)	61.2 (+3.1)	33.0 (+4.8)	24.8 (-6.6)
	東京都	67.1	59.3	19.9	58.1	28.2	31.4
	全国(公立)	63.8	58.8	16.2	55.3	25.3	33.5
算数・数学	武蔵野市	63 (+8.6)	51.0 (+10.3)	7.5 (-8.7)	53.6 (+8.2)	53.7 (+8.0)	22.8 (-6.8)
	東京都	54.4	40.7	16.2	45.4	45.7	29.6
	全国(公立)	48.3	34.9	15.7	39.1	39.6	35.0
理科	武蔵野市	69.0 (+7.8)	54.7 (+8.1)	6.1 (-7.9)	83.7 (+3.4)	83.7 (+3.4)	7.3 (-2.1)
	東京都	61.2	46.6	14.0	80.3	80.3	9.4
	全国(公立)	58.7	45.2	11.4	79.4	79.4	9.9

※（ ）内の数値は東京都との差を表す
※中学理科は公開問題と非公開問題を組み合わせ、生徒ごとに異なる問題を解くため、公開問題のうち、最も数値が高かった問題の割合を記載

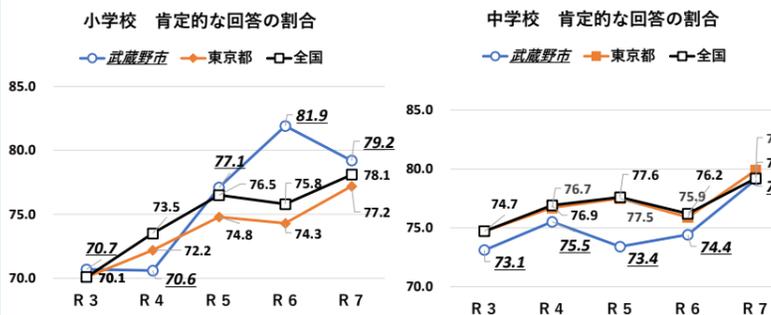
(4) 主体的・対話的で深い学び等に関連する児童・生徒質問紙調査の経年変化

①5年生（中学1、2年）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか

②学級の児童・生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



③自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



(6) 無回答率が高かった問題の例と指導改善のポイント

教科	問題例	指導改善のポイント
小学校 国語	「資料1」を読み返して言葉の変化について自分が納得したことを、「資料2」「資料3」「資料4」に書かれているを理由としてまとめて書く。	複数の資料を結び付けて読む学習活動を設定し、各資料がどのような関係にあるのか、資料にある語句や情報を丸や資格で囲む、線でつなぐなどしてどの文と結びつくのか視覚的に明らかにしながら読む指導が効果的。
算数	3/4+2/3について、共通する単位分数と3/4と2/3が共通する単位分数の幾つ分になるかを書く。	数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目して、共通する単位分数を見いだすことで、既習の整数の加法に帰着できるようにすることが大切。
中学校 国語	職場体験のお礼の手紙の下書きを条件に従って修正する。（条件①言葉の使い方など特に修正した方がよい部分を②修正したい部分を線で消し、消した言葉の横にどう直すのかを書く③修正した方がよいと考えた理由を具体的に書く）	文章の推敲には、読み手の立場に立ち、文や段落の長さ、文や段落の役割、語順が適切かなど、学習した知識や技能を生かして整えるよう指導することが有効。
数学	A駅から60.0km地点につくられる新しい駅の運賃がおよそ何円になるかを求める方法を説明する。	解決の見通しを立てるため表、式、グラフを使って表現する、どう解決したかを振り返るなどの活動が大切。その際、不十分な説明を洗練する活動も考えられる。

※指導改善のポイントは「令和7年度全国学力・学習状況調査報告書・調査結果資料（国立教育政策研究所HP）」を参考

(5) ICTを活用した学習状況に関連する児童・生徒質問紙の結果

①あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか	②あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか
肯定的割合	肯定的割合
小学校 第6学年	小学校 第6学年
武蔵野市 89.7 (+5.0)	武蔵野市 93.6 (+2.8)
東京都 84.7	東京都 90.8
全国(公立) 81.8	全国(公立) 89.8
中学校 第3学年	中学校 第3学年
武蔵野市 88.0 (+1.5)	武蔵野市 93.5 (+2.4)
東京都 86.5	東京都 92.1
全国(公立) 83.6	全国(公立) 91.5
③あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか	④あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができますか
肯定的割合	肯定的割合
小学校 第6学年	小学校 第6学年
武蔵野市 79.2 (+5.4)	武蔵野市 90.6 (+7.9)
東京都 73.8	東京都 82.7
全国(公立) 69.3	全国(公立) 76.7
中学校 第3学年	中学校 第3学年
武蔵野市 67.6 (+0.7)	武蔵野市 88.1 (+5.5)
東京都 66.9	東京都 82.6
全国(公立) 63.3	全国(公立) 76.6

※（ ）内の数値は東京都との差を表す

(7) 各種の結果を踏まえた分析

①-1	小・中学校ともに全教科で全国・東京都の平均正答率を超えた。特に小学校は全問題で全国・東京都を超えた。中学校も国語の1問、理科の公開問題の2問でわずかに東京都の平均を下回ったものの、それ以外は全て上回った。
①-2	本市の第1四分位（データを小さい順に並べたとき、はじめから数えて25%の位置にある数）と全国の平均正答率を比べると、小学校理科は全国より高く（市10.0問 全国9.3問）、小・中国語・算数もほぼ全国平均と同じとなった。数学のみ全国平均よりやや下回った（市6.0問 全国7.2問）。中学校理科のIRTバンドは1・2の割合が市21%、東京都29.3%、全国31.5%となった。（標準スコアは3、最大5）
①-3	以上のことから、市全体では知識・技能の習得等が図られ、高い正答率を保っているものの、全国の平均正答率以下の児童・生徒が一定数おり、指導の個別化（その子に応じた指導）の一層の充実が必要である。
②-1	項目別の平均正答率に着目すると、「思考・判断・表現」、「記述式」の問題とともに、全国・東京都よりも高く、無回答率も多く問題で全国・東京都より低い結果となった。
②-2	関連して「主体的・対話的で深い学びの状況に着目すると、「自分の考えを発表する機会」や「話し合い活動」に対して肯定的な回答を示している児童・生徒は高い割合になっており、各校にて、言語活動の充実が着実に図られている。また、「自分と違う意見を考えるのが楽しい」という割合も高まってきており、多様な意見を生かした学習や教育活動が児童・生徒の実感として成果に表れていると考えられる。
③-1	ICTを活用した学習状況に着目すると、小・中学校ともに児童・生徒は効果的な活用ができていると感じている。特にプレゼンテーションについては小・中学校共に全国・東京都より肯定的な回答の割合がかなり高い。
③-2	一方で情報整理については他の項目と比べて肯定的な回答が低くなっている。今後、各教科で学習者用PCを活用する際のポイントとなる。

【参考】令和8年度以降の全国学力・学習状況調査について

○令和8年度の全国学力・学習状況調査は、中学校調査のうち英語のみをCBTで実施。
○令和9年度以降、小・中学校ともに調査をCBTに全面移行の予定。
「文部科学省HP」より

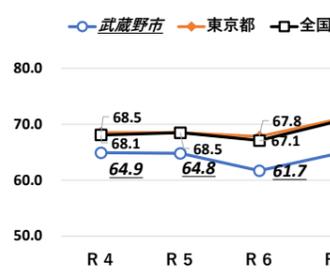
PBTとCBTが双方行われた令和6年度経年変化分析調査では、実施方法の違いによる解答への影響（モードエフェクト）が報告されている。円滑な移行に向け、国が示すサンプル問題など今後研究していく必要がある。

5 児童・生徒質問紙調査の経年変化【回答＝％】 ※第四期学校教育計画で「注目する指標」を中心に抽出

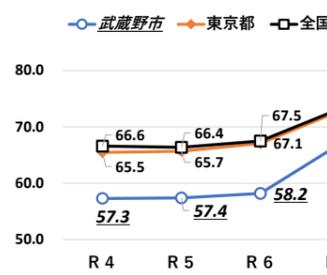
方針Ⅰ 学校での子どもの育ちや学びを支える基盤をつくる（教育相談体制、教育データの活用等）

①困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

小学校 肯定的な回答の割合

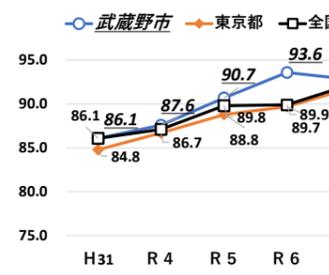


中学校 肯定的な回答の割合

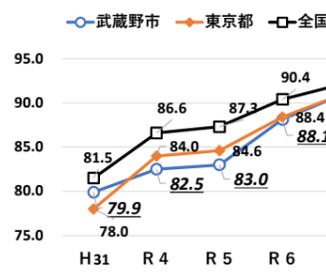


②先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

小学校 肯定的な回答の割合

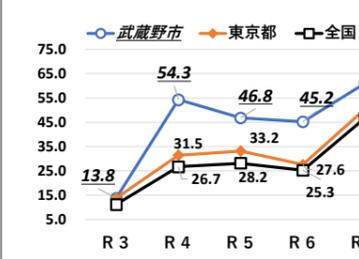


中学校 肯定的な回答の割合



③5年生（中学1、2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使いましたか（令和7年度より「ほぼ毎日」が「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業で活用）」に分化）

小学校 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）の合計割合



中学校 ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）の合計割合

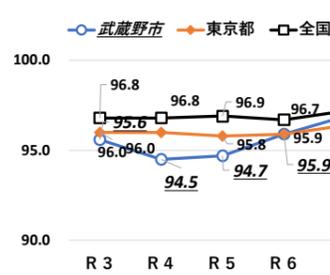


○「いつでも相談できるか」は全国・東京都より依然として低いが、中学校では大幅な向上が見られた。
また、「先生がよいところを認めてくれる」の割合は小・中学校ともに9割を超えている。特に中学校は年々向上しており、学校としての指導の改善が図られていると考えられる。
○「ICTの使用」について、「週3回以上」を入れると小学校は85.4%、70.3%となる。昨年度は、小学校80.5%、中学校64.0%であり、日常的な活用は一層進んでいる。ただし、今年度より、「ほぼ毎日」に「1日に3回くらい」が加わっていることに留意したい。

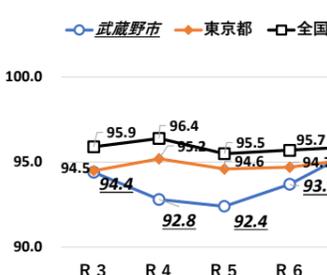
方針Ⅱ 自らの人生を切り拓く自信と意欲を育む（よさや可能性の伸長＝安心できる学級風土・生徒指導の改善、自立した学び手の育成＝個別最適な学びと協働的な学び・読書活動等 ※表面も参照）

①いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

小学校 肯定的な回答の割合

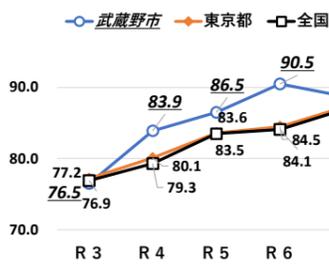


中学校 肯定的な回答の割合

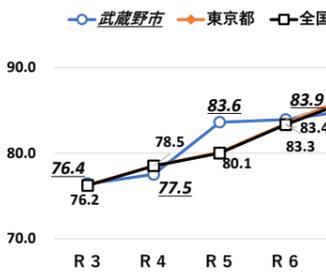


②自分には、よいところがあると思いますか

小学校 肯定的な回答の割合

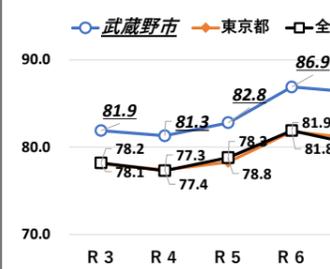


中学校 肯定的な回答の割合

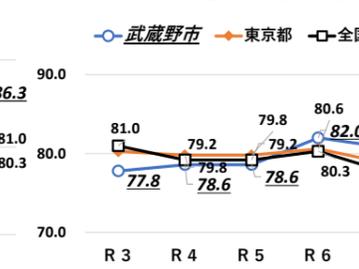


③5年生（1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校 肯定的な回答の割合



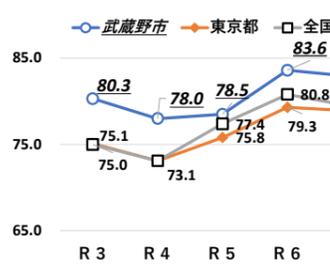
中学校 肯定的な回答の割合



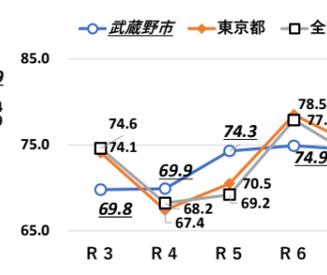
○「いじめはいけないこと」の割合は年々高まっており、各校における「いじめを絶対許さない」といった指導の成果が着実に数値に表れていると考えられる。
「自分にはよいところがある」の割合も85%を超えており、引き続き、方針Ⅰ-①②の数値と併せ、安心できる学級風土や児童・生徒の個性の発見や自己実現を進める生徒指導への改善を図っていく必要がある。
○個別最適な学びに向け、「自分で考え取り組む」主体性や「学習内容を次につなげる」自己調整に関する資質・能力が着実に育まれている。特に小学校では、「自分で考え取り組む」「学習内容を次につなげる」項目が、全国や東京都よりも高く、指導の工夫がより図られていることが推察される。
一方で、「学校以外の勉強時間」についてみると、「1時間以下及び全くしない」の割合が年々高くなっている。一方で、2時間以上の割合は小学校71.8%、中学校78.8%であり、全体とみると学校外での学習習慣は極めて高い。慎重な分析が必要だが、例えば児童・生徒が興味・関心がある分野を進んで学びたいような工夫が今後考えられる。
○「平日の読書」について、1時間以上の割合は小学校が24.7%、中学校が12.1%だった。いずれも全国や東京都よりも高く、「全くしない」の割合も低くなっている。

④学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

小学校 肯定的な回答の割合

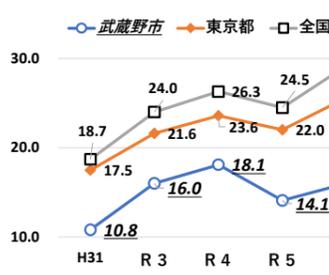


中学校 肯定的な回答の割合

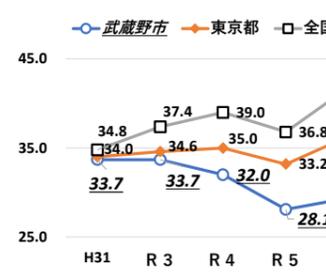


⑤学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。令和5年度からは電子書籍も含む）

小学校 「全くしない」の割合



中学校 「全くしない」の割合



⑥学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学校 1時間以下＆全くしないの割合



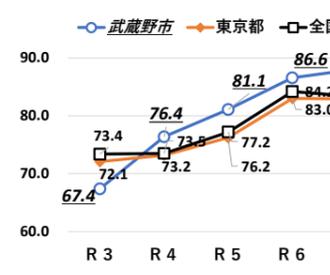
中学校 1時間以下＆全くしないの割合



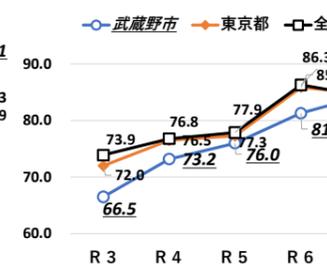
方針Ⅲ 多様性を生かし、社会を形成する力を培う（子どもの主体的な教育活動の推進、まちや社会と向き合い、未来を考える学びの推進）

①あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（中学校は学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

小学校 肯定的な回答の割合

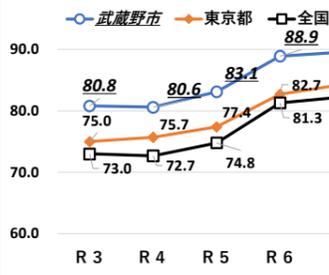


中学校 肯定的な回答の割合

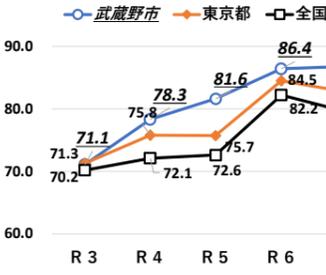


②総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか

小学校 肯定的な回答の割合

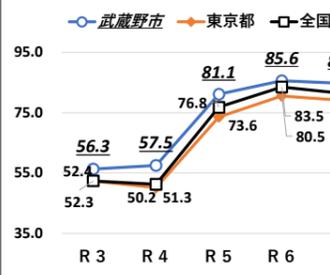


中学校 肯定的な回答の割合

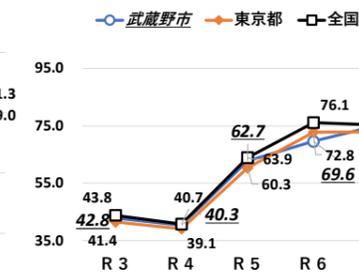


③地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う（令和4年度までは「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」）

小学校 肯定的な回答の割合



中学校 肯定的な回答の割合



○「学級会や学級活動での話し合い」の割合は年々高くなっている。特に小学校は全国・東京都よりも高くなっており、各校の取組の成果が数値として表れている。
○総合的な学習の時間における探究的な学びの割合も年々向上しており、小学校は「当てはまる」が52.1%で、全国の37.5%より大幅に高い。中学校も、全国や東京都が下がっている中で上昇している。「地域や社会をよくしたい」との考えも小・中学校ともに全国や東京都よりも高く、地域の特色を生かした武蔵野市民科をはじめとした探究的な学びが充実してきている。